

| | |
|-------------|-----------------|
| Syllabus Id | syl.-020 |
| Subject Id | sub.-0013 |
| 作成年月日 | 5114 |
| 授業科目名 | 文学特論 |
| 担当教員名 | 坂本信男 |
| 対象クラス | 電子制御工学科4年生 |
| 単位数 | 2高専単位 |
| 必修/選択 | 必修 |
| 開講時期 | 通年 |
| 授業区分 | 人文・語学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 実施場所 | 電子制御工学科棟2F D4HR |

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

涵養された知力、国語力を用いて、様々な世界に通ずる読書体験をし、合目的で正確、且つわかり易い情報作成(作文・レポート、その他のプレゼンテーションを含む)の基本を学ぶ。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

3年間迄の国語の基礎知識

| 学習・教育目標 | Weight | 目標 |
|---------|--------|---------------------------------------|
| | | A |
| | B | 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成 |
| | C | 工学専門知識の創造的活用能力の養成 |
| | D | 国際的な受信・発信能力の養成 |
| | E | 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成 |

学習・教育目標の達成度検査

前後期試験、もしくはレポート、調査発表、小試験によって検査

授業目標

言葉、表現の正確な理解から、背景の思想、発想の源、時代思潮等について、広く思考、推測することを可能にする多くのテキストにふれて、種々の発想 表現語彙 文章構成 語法を身につけ、応用する
単なる「文芸鑑賞者 国語学習者」から一歩ふみ出し、実践的に考え、発想し、それを十全に伝達 表現する

授業計画(プログラム授業、プログラム教員参観可。 参観欄に×印がある回は参観不可。)

| 回 | テーマ | 参観 |
|------|---------------------------------|----|
| 第1回 | 「言葉 論理 表記 文章」潜在的しくみと如何に学ぶかについて | |
| 第2回 | | |
| 第3回 | 古代語の世界規定 | |
| 第4回 | 現代日本語はどう変化したのかそれは何故か 「万葉集」から | |
| 第5回 | | |
| 第6回 | 中世過渡期の間人像 (時代相 テキストの流転 中世から近世へ) | |
| 第7回 | 「徒然草」精読 | |
| 第8回 | (古代の文章構成と発想) | |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | (文化生成と継承の実態 中世～江戸) | |
| 第12回 | 中世人物点描(静岡東部と中世文化人) 調査と発表(演習) | |
| 第13回 | 理科系の作文法 レポート指導 | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | 前期期末試験 | |
| 第16回 | 日本の近代(近代の始発について 北村透谷 夏目漱石) | |
| 第17回 | 日本の近代 知られざる側面 (漱石 寺田寅彦 内田百閒) | |

| | | | |
|------|--------|---------------|--|
| 第18回 | | 漱石精読 | |
| 第19回 | | | |
| 第20回 | | 寅彦精読 | |
| 第21回 | | | |
| 第22回 | 後期中間試験 | | |
| 第23回 | | 百閒精読 | |
| 第24回 | | | |
| 第25回 | | | |
| 第26回 | | T.Miedaner 精読 | |
| 第27回 | | | |
| 第28回 | | | |
| 第29回 | | レポート報告 | |
| 第30回 | 後期末試験 | | |

課題

オフィスアワー；木曜を除く、全週日

評価方法と基準： 試験/提出物中心；正確な知識 表現の的確性 文章構成の工夫 十全な準備 情報作成首尾 伝

教科書等 プリントテキスト（学生の状況に柔軟に応じて、より適正なテキストに差換えることもある）

授業アンケートへの対応 板書など、整理 工夫し、可及的に評価検査に応じた情報にしぼることとする

備考

- 1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
- 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

